

議題（２）情報化WGにおける審議内容について

１．情報化WGにおける検討の経緯

第１回 6/23(月) 田村克彦（株）ＩＴ・プランニング 代表取締役のプレゼンテーション

「運輸情報化の一つの視点」（別紙１参照）

- ・ シームレスな情報提供とソリューション政策の重要性等
- ・ 情報化施策の事例紹介
- ・ WGでの枠組みの検討

第２回 9/3(水) 土井勉(財)千里国際情報事業財団専務理事のプレゼンテーション

「公共交通利用促進と情報化」（別紙２参照）

- ・ 公共交通機関利用者のニーズ等の整理
- ・ 近畿において情報化を検討する意義等（検討の枠組み）の再整理

第３回 11/12(水)・重点的に取り組むべき情報化施策

- ・ 情報化施策を推進するための関係者間の連携のあり方等

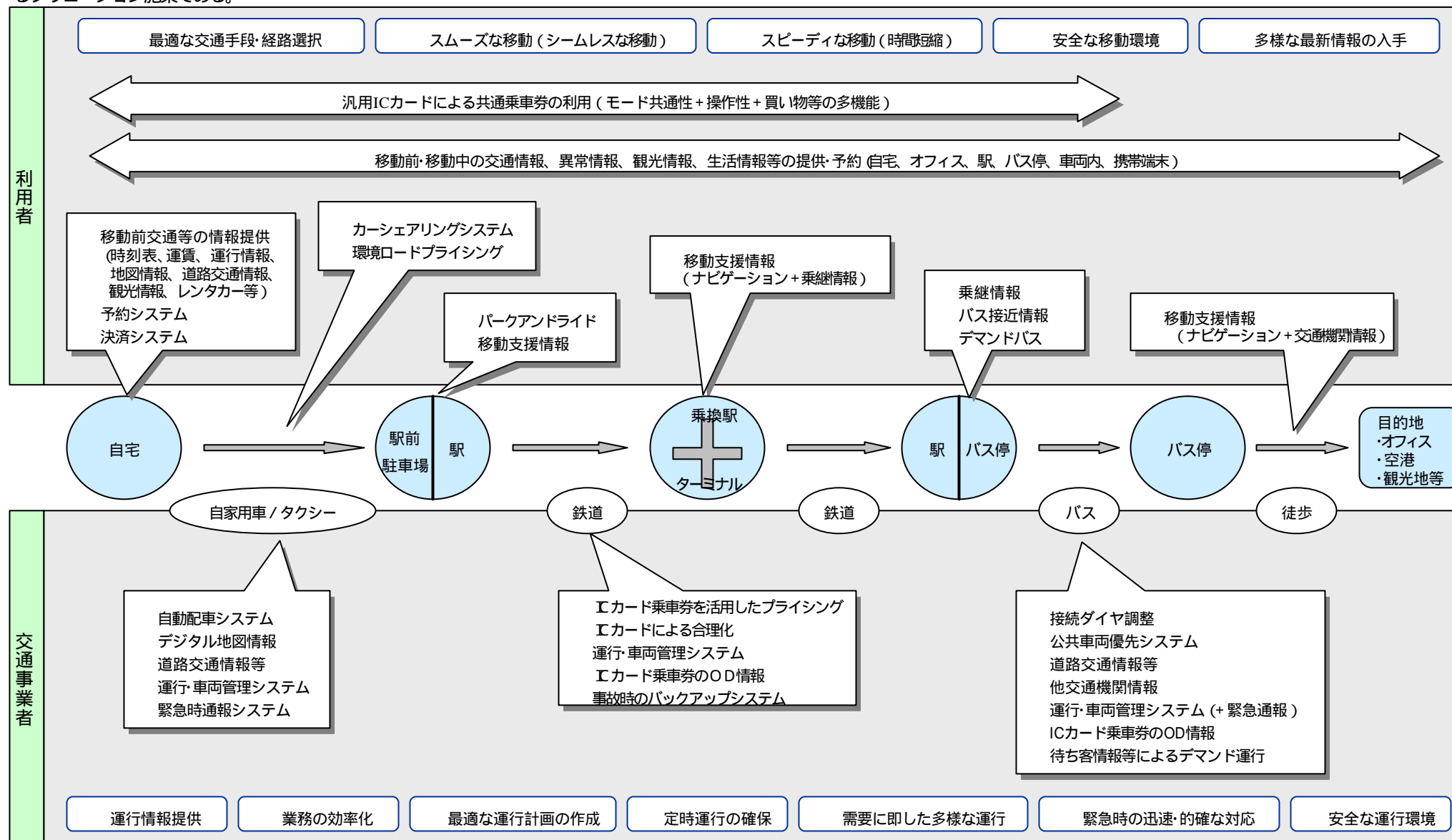
今後、重点的に取り組むべき施策、関係者の立場・役割（関係者間の連携のあり方）等について更に深く検討し、来春に向けとりまとめる方向

２．情報化WGでの主な議論

- ・ 情報化は、交通に係る諸課題を解決し要望に対応するための有効な方策の一つ。
- ・ 情報化により、公共交通機関の利便性向上、利用促進を図る。
- ・ 「情報技術の活用」だけでなく、「提供する情報内容のあり方」についても検討し、対応していくことが重要である。
- ・ 近畿地域の特性、即ち、「交通網が発達している一方で乗継ぎが悪いこと」、「近畿地域の交通事情に不慣れな旅行者等が大都市に多く訪れること」など、を踏まえ、これに応じた交通情報化施策を検討し、推進していくことが必要である。
- ・ 利用者のニーズ等を踏まえ、公共交通機関の利便性を高めて利用促進を図るためには、利用者の立場や状況（旅行者か通勤通学者か、都市部での利用か地方での利用か等）に応じ、関係者間の連携などによる「シームレスな情報の提供」や、「情報技術の積極的な活用」（ICOCA や PiTaPa 等交通系 IC カードの利用促進・相互利用化、データの標準化など）を図っていくことが重要である。

3. 人の移動における情報化イメージ / 出発から目的地までシームレスなサービス

出発から到着までの個々のプロセスにおいて情報化政策が検討され施行されてきているが、全プロセスを通してシームレスなサービスの提供を実現していくことが、人の移動に対するソリューション施策である。



システム / 機能

効果

利用者のニーズを的確に把握し、従来の方法では対応が困難なサービスに関して情報技術の活用による克服が期待される。
そのためには、利用者個別にわかりやすい運行情報提供やICカードの活用など公共交通利用に関する情報のシームレス化が必要となる。

データは：平成14年、近畿運輸局調査資料より

